

| | |
|------------------------|-------|
| 量子コン関連が存在感 | ……2面 |
| エア・ウォーター、オアシス参入に最高値 | ……2面 |
| 「副首都法案」議論佳境へ | ……2面 |
| 特報 フクダ電子 会社提案議案を取り上げ | ……最終面 |
| 新NISA「成長投資枠、魅力の対象投資を探る | ……最終面 |



日本証券新聞

Nihon Securities Journal since 1944, a member of JIA

6/24

水曜日(友引)

日経平均 **69,788.38**
-2,565.58(-3.54%)



日本証券新聞 Digital
www.nsjournal.jp

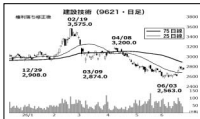
この株 選手

建設技術研究所は河川分野をはじめ各種公共工事における設計・調査業務といった建設コンサルティング事業を手掛けている。国をはじめ都道府県や市区町村など公共セクターの顧客が多いことから収益性が安定しており、政府による国土強靱(きょうじん)化や防災強化を背景に、老朽化した社会インフラ整備の進捗が業績拡大に寄与するとみられる。

このほど開示した2026年1～3月期営業利益は前年同期比12%増の65億7100万円と、四半期ベースの過去最高を更新して着地。防災・減災や国土強靱化の予算拡大が追い風となり、前期比15%増の105

建設技術(9621.P)

国土強靱化・防災強化の中核プレーヤー 東海東京(は新規)「Outperform」



億円と3期ぶり最高益を見込む通期計画に対する進捗率は63%に達した。

東海東京インテリジェンス・ラボでは建設コンサル事業における従業員増加や受注単価上昇を想定するほか、流域・国土事業中心の安定した業務の受注、地方公共団体を中心に交通・都市事業部門

の業績拡大に期待。国土強靱化に不可欠なコンサル集団だと評価したうえで、レーティング「Outperform」を付与し、目標株価4050円でカバレッジを開始した。

株価は今期2桁増益計画発表後の2月19日に3575円の上場来高値に到達。その後はAI・半導体銘柄主海の株高に取り残されたものの、6月3日の安値2563円で底入れした公算が大きい。PER11倍前後という割安感も踏まえて押し目を狙っていききたい。(NA)

PER=10.7倍
PB=1.10倍
配当利回り=2.84%